



Bauhaus. Project



Architecture  
Presentation

architect  
Kazunari Tabuchi

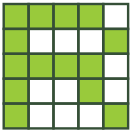
FANFARE  
Co., Ltd



2017年度 [建築家住宅] 供給戸数 全国No.1  
※建築家住宅(建築士の資格を持つ独立した建築家により基本設計された住宅)  
主要供給事業者9社における2017年度供給数  
(株) 矢野経済研究所調べ/2018年10月現在



建築家と建てる家を、  
身近に、手軽に



R+house





## 担当建築家

# 田淵 一成

Kazunari Tabuchi

株式会社 FANFARE@福岡

幸せな住まいとは「住まい方 × 家」で表すことができます。  
住まい方によって、ささいなことが楽しいものになり、家の構成によって大きく日常が変化していく。  
そして、この2つが掛け算のようにうまく掛け合わさることで、家族の暮らしは大きく豊かになります。  
それぞれの住まう人に合った、最高の家を一緒に手づくりしていきましょう。

### Profile

|        |                           |
|--------|---------------------------|
| 1978 年 | 鹿児島県生まれ                   |
| 2001 年 | 九州職業能力開発大学校建築施工システム技術科 卒業 |
| 2001 年 | 洋建築計画事務所 入社               |
| 2012 年 | FANFARE 入社                |

# デザインの素晴らしさ&長持ちするデザイン

今の日本の住宅の寿命は約 30 年というのが普通です。

ちなみに、アメリカでは 70 ～ 100 年以上、イギリスでは 100 ～ 120 年以上。

建物の設計や住まい方次第で、家の寿命を延ばすことは可能なんです。

日本と欧米、なぜこんなに違いがあるのか？

欧米では、ライフスタイルに合わせ自由に変更できる家なので、  
お金もあまりかけずに、生活に合った良い暮らしをしたり、子どもの世代に受け継いだり・・・  
そんな良い循環ができていますので建物の寿命が長いのです。

実際に、何十年も前にデザインされた建築や家具が今の時代でも愛され続け、  
価値のあるものとして受け継がれています。



1904 年  
バレルチェア



1920 年代  
LC2/LC3 ソファ



1929 年  
バルセロナチェア

## 近代建築の三大巨匠

▶ ミース・ファン・デル・ローエ  
1931 年 サヴォア邸



▶ フランク・ロイド・ライト  
1936 年 落水荘



▶ ル・コルビュジェ  
1951 年 ファンズワース邸





## 建築家の高度な設計スキル

お客様のライフスタイルにあった設計をする上で重要なことのひとつに

『動線』を考慮することがあります。

**動線とは、家の中を自然に動くときによく通る通路のこと。**

普段の生活で朝の忙しい時間帯や、夜の家族でくつろぐ時間帯での

動線、炊事・洗濯・取り入れ・お風呂・就寝の準備など

家事をする時の動線、来客があるときの動線など、その家族に合った

**動線を計画する必要があります。**



お父さんの部屋

[illegible]

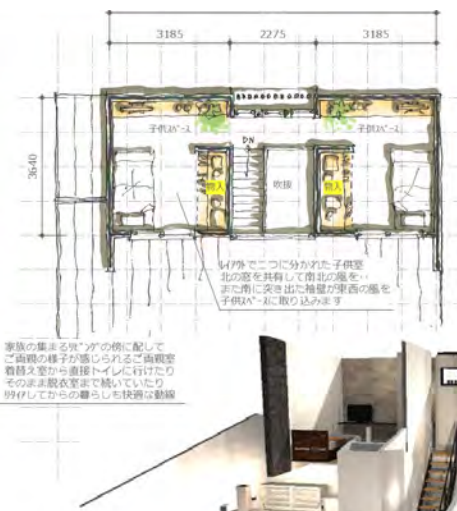
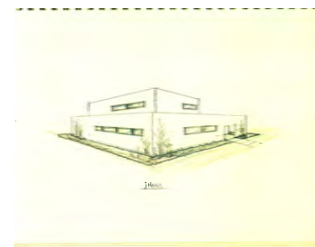
お母さんの部屋・押し入れ

[illegible]

それ以外、毎日の負担が減るように、WCを1番近くなるようにしました。  
少しでもラクしていれば良いと思います。

全体の配置として

さほど大きな影響はLDKとは無関係)とのアセスメントは日々の生活の重なり合いと捉えられた。あとは、大切にしたいのは和室の考え方もきちんと成り立つように……(〇〇)です。■様御家族が安心して快適に暮らしていけるよう想いを込めて計画させていただきます。





# 敷地を読む

樹木は同じ種類でも同じ形のものは一つありません、枝ぶりも違う。

それは生えている場所が違うからです。

住宅も同じです。敷地に溶け込むデザイン、自然の風・光を利用するデザインになるべきなのです。

建築家は、まず敷地を見て、その中でお客様の要望を入れて全体的にデザインしていきます。



建築家 藤本誠生建築設計事務所@熊本 藤本誠生



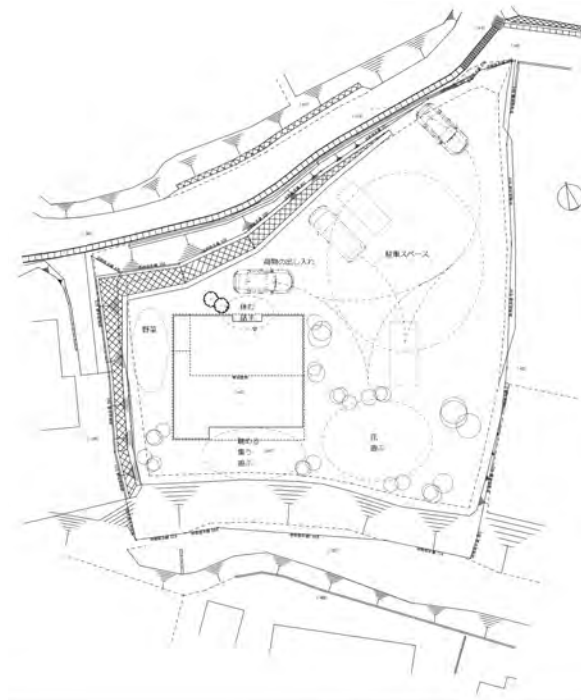
建築家 スギハラ建築設計事務所@広島 杉原豊実



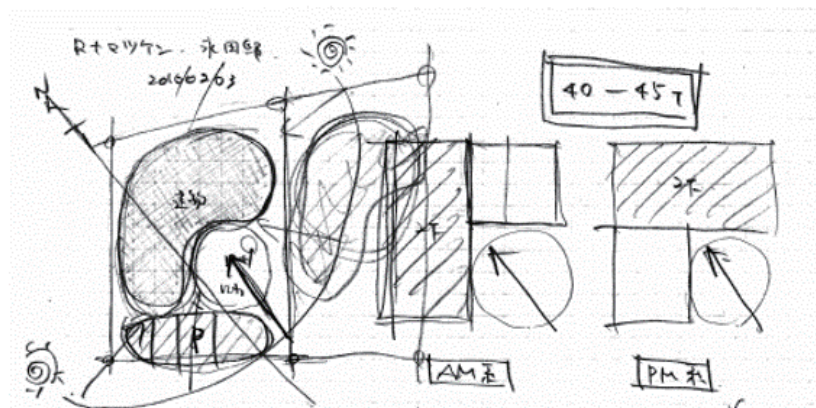
建築家 小川建築設計事務所@山口 小川真一郎



建築家 小川建築設計事務所@山口 小川真一郎



光・風・周辺の交通量・車が多いか・  
人が良く通るか・昼夜のギャップ・隣家と距離感・  
隣家の窓・玄関位置・どんな部屋なのか土地の  
個性を考え、間取りや窓の位置は必ずその敷地に  
合わせて作りこまれています。



# ヒアリング力と提案力

建築家と住宅会社の設計担当者とは、家づくりに対するアプローチが全く違います。

例えば・・・

LDKは何畳欲しいですか？  
和室は何畳欲しいですか？

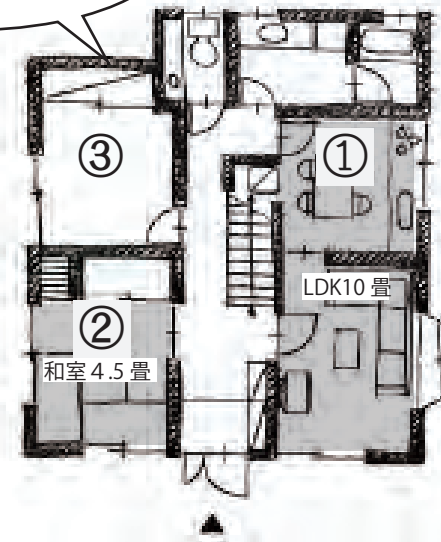
①リビングとダイニングは分けて全部で  
12畳くらい欲しいです！

③洋室も1つ欲しいな

②和室は5畳あるといいなあ・・・！

空間の寄せ集めプラン

ご希望どおりのプランを作成しました。  
いかがでしょうか？最高でしょう？



一見、要望を聞いてくれて反映させてくれているように感じますが、  
これは要望をパズルのように当てはめただけの【空間の寄せ集め】になります。  
それは、本当にお客様にとって最適な間取りなののでしょうか？

建築家は、こう聞きます。

「目をつぶって想像してください。建てた家で何をしている光景ですか？」

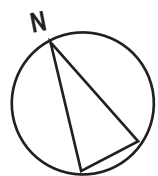
その答えが、一番やりたいことです。そのライフスタイルを実現してくれるのが建築家。

簡単にヒアリングされて出てきた間取りと、しっかりヒアリングされプロの建築家の知恵が反映された  
結果とは違います。



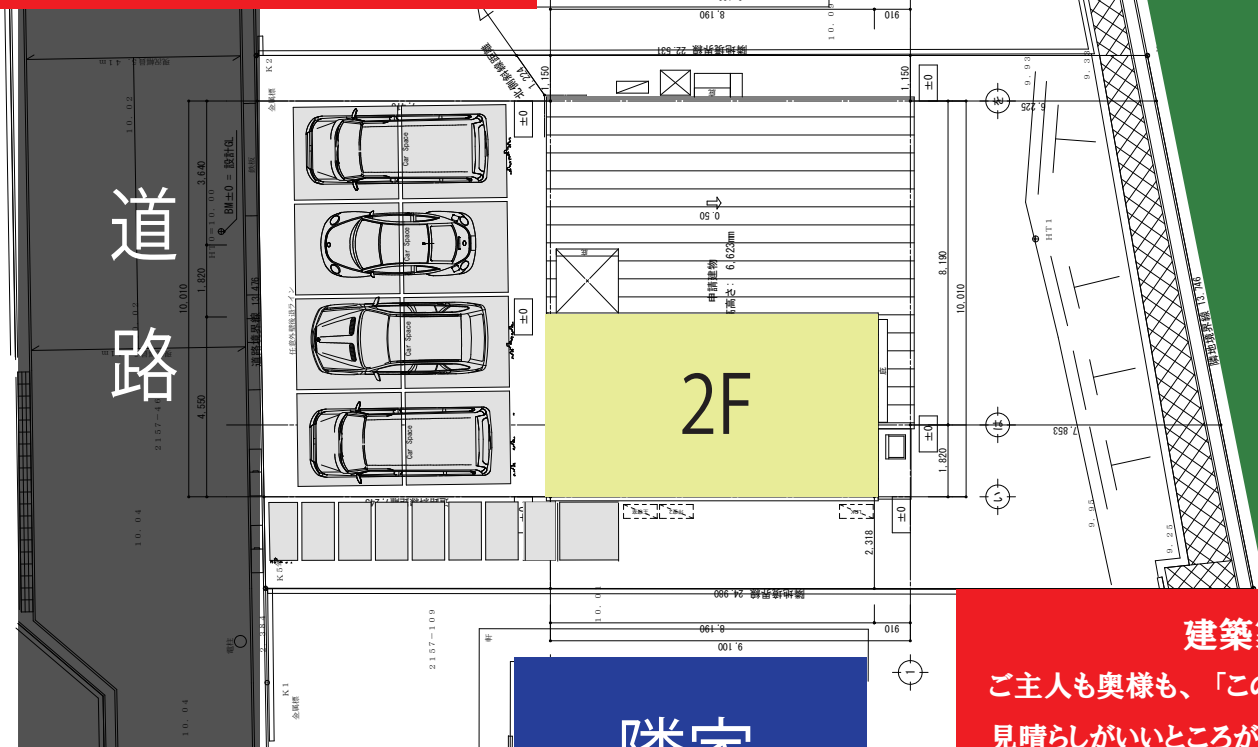
さあ、建築家の提案を見てみましょう→





### 建築家の解決ポイント①

奥様が車の後進が苦手とおっしゃっていたことと、来客用も含め、4台分の駐車スペースが必要とのことから、前面道路に面した部分に大きく駐車場を配置。  
これだけのスペースがあれば、楽に駐車できるはず。



### 建築家の解決ポイント②

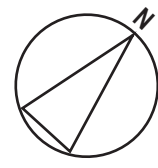
二階部分は北側に寄せると、北側隣家への光を遮ってしまう。南側の隣家にも窓はあるが、おそろくりビングのように普段開けて使う部屋ではないので、北側隣家へ配慮し、南側に寄せた。

### 建築家の解決ポイント③

ご主人も奥様も、「この土地の東側が開けていて、隣家もなく、見晴らしがいいところが好き！」とのことだったので、東側に思いっきり開いた。遠くに家はあるが周りからの視線は気にならないので、ご家族でのびのび過ごすことができる。  
駐車場、玄関からも庭にアクセスしやすいように、アプローチも設けた。



# 1st floor



釣りが趣味で道具はたくさんあるけど、臭いが気になるので家の中には持ち込まないと思う。玄関には、靴、傘、上着ぐらいがしまえればいいかな。

玄関内に置きたい荷物は少ないようなので、その分、ポーチを広めにとりました。こうすれば、駐車場から玄関まで少し距離がありますが、雨の日でもゆっくり傘をさして出て行けます。玄関ドアまでに奥行があるので、隣家からも距離を保てますし、開けていても下駄箱が丸見えにならないように作りました。また、中庭へ視線が抜けるので、広く感じられるはずです。

今は子どもが小さくて、なかなかゆっくり入れないけど、お風呂や温泉が好き！

中庭に向けて窓を設けました。中庭の緑を眺めながらお風呂に入ることができます。中庭に向けて3面窓がありますが、全て高さが異なるので、お風呂にカーテンやブラインドを付けなくても、外から見られる心配はありません。

わぁ〜うれしい！露天風呂気分が味わえそう♪

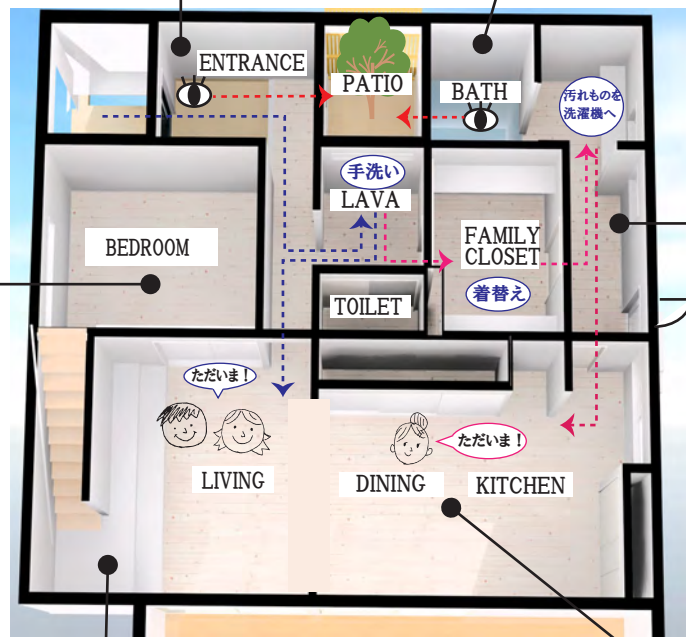
寝室は、寝るだけに使えば十分。ただ、将来は一階だけで生活できるように一階にあるといいな。

お子様が小さいうちは、ベッドをつなげたり、布団を敷いてみんなで寝られるように6畳の寝室をリビングのすぐ隣に設けました。  
扉を開いておけば、リビングにさらに広がりを出せますし、お子様を先に寝かしつけて、LDKで過ごしていても、お子様が泣き出したすぐに気づけるので、安心です。

趣味のギター関係の物をどこかにまとめて、子どもの手に触れないところに収納したいけど、できればすぐに使えるところがいいな！

鉄骨階段が怖いとのことだったので、階段には壁を作って、リビングと階段を舞台のようなステップでつなぎました。生活はほぼ一階のみで完結していて、階段がただ二階へ行く時にしか使わない通路になってしまってもったいないので、「遊び」がある楽しいスペースを創り出しました。お子様が上って舞台として遊んだり、来客が多い時には腰かけとしても使えますし、ご主人がギターを弾くのにもいいですね！  
階段をこういう形にすることで、階段下を寝室側から収納に使うこともできますので、ここにギターをしまっておけば、リビングからも近いので、弾きたい時にすぐに持ち出せます。

いろんな使い方ができて、すごいですね！楽しみです！

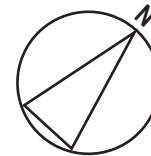


洗濯はできれば外に干したいけど、共働きなので部屋干しすることも多いかな。

大きな脱衣室のイメージで部屋干しスペースを設けました。お風呂に入る時だけ、脱衣室と部屋干しスペースを区切ればOK！ファミリークローゼットも隣り合わせなので、乾いたら移動させるだけで洗濯が完結しますし、下着やパジャマは乾いたらお風呂上がりにそのまま着ることもできます。休日など、外に干したい時のために勝手口も設けました。ゴミ出しにも便利です、汚れて帰ってきたら、この勝手口から入ってお風呂へも行けます。キッチンともつながっているので、家事を効率的にこなせますよ！

今の住まいは、キッチンの収納がオープンになっていて、子どもが触って危ないし、散らかって見えて…

では、キッチンバックに扉付きの収納を設けましょう。キッチン周りの物を全てまとめられるので、奥様だけでなく、ご主人がキッチンを使われる時も、何がどこにあるのか一目瞭然で便利です。  
キッチンは、LDKを見渡せる位置に配置することで、お子様のことを気かけながらも効率よく家事がこなせると思います。

2nd  
floor

子ども部屋は、ベッドと机、小さなタンスぐらいが置ければいいかな。

まず、階段を上がってすぐのところにお子様勉強できるカウンターを付けて、フリースペースとしました。こうすることで、天井面が吹き抜けより奥まで見えるので、吹き抜けがさらに開放的に広々と感じられます。

また、収納も付けたので、一階のファミリークローゼットとここを使えば、子ども部屋自体をよりすっきりさせられます。

勉強中のお子様とも吹き抜けでつながって、一体感があります。

共働きのご家族は、家で過ごす時間を大切にしたいので、なるべくそれぞれが個室にこもらず、家族が集まるような空間を意識して作りました。

わぁ～！大きな吹き抜けがあるといいなぁと思っていたので、うれしいです！

でも…カウンターから下が見えたら怖いかも…

鉄骨階段が怖いとおっしゃっていたので、フリースペースと吹き抜けの間には、鉄骨柵ではなく、床から高さ 90 cm の壁を設けました。そこに奥行 45.5 cm のカウンターが付くので、お子様はもちろん、大人が身を乗り出しても落ちる心配はありませんので、安心してください。

お子様が小さいうちは、ここは趣味の部屋やゲストルームとしても使えますし、冬は二階の方が暖かいので、みんなでここに寝て、一階の主寝室を自由に使うこともできます。

将来は、平屋のように一階だけで生活できるので、お子様の里帰り用に使ったり、生活スタイルの変化に応じてさまざまな使い方ができます。



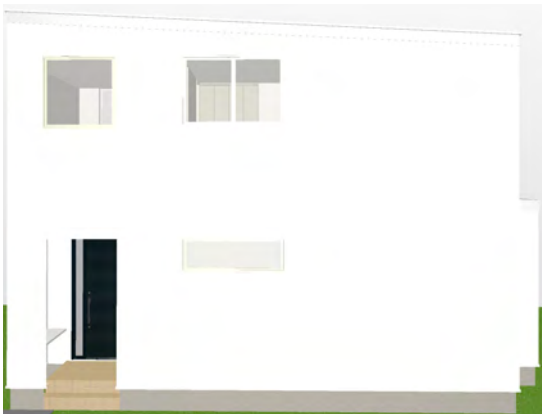
これといって趣味はないけれど、どこかミシンを使えるスペースがあるといいなぁ

フリースペースはお子様宿題や勉強をするようになるころまでは、使用頻度が少ないでしょうから、奥様がミシンを使ったり、パソコンを使ったりするスペースにもいいですよ。

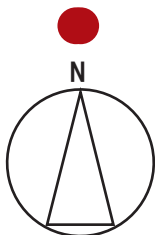
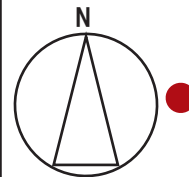
クローゼットもあるので、本棚にして読書スペースにしたり、自由に使っていただけます。



南側：玄関は、前面道路側に設けることを避けて、こちら側に配置した。  
玄関を開けていても、周りからの視線が気にならない。  
隣家に面してはいるが、リビングなど普段使う部屋ではないので、植栽などの目隠し程度でカバーできる。



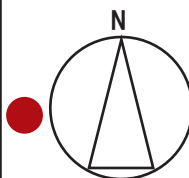
東側：庇と袖壁で、見た目にかっこよくデザインした。  
夏の直射日光を遮る日よけ、雨よけの役割があるとともに、袖壁があることで、隣家の庭からの視線を遮る効果もある。  
閉鎖的な西側と、開放的な東側でメリハリのあるデザインにした。



北側：窓は整列させて、シンプルに配置した。  
二階個室の窓は、隣家がどちらも平屋で周りからの視線を気にしなくていいので、大きめにした。



西側：前面道路に面しているので、窓を付けずに閉鎖的に。しかし、壁のみにしてしまうと、周りに威圧的な印象を与えてしまうので、二つのボックスをルーバーでつないでアクセントにした。  
シンボルツリーを植え、ライトアップすると、壁面にその影が映し出されるなど、シンプルだがオリジナリティがある。





# 岱明風配図

・・・とは、ある場所における一定期間の風向の頻度を八方位もしくは一六方位に分けて表し、同時に各風向きの平均風速をも示したものの。

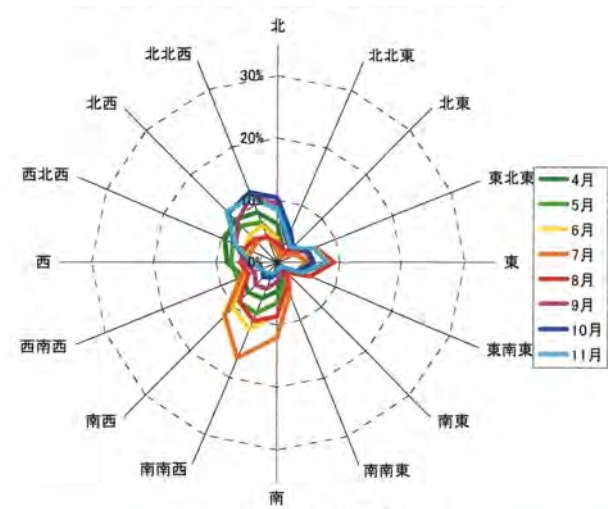


図4a 月別風配図(起居時)

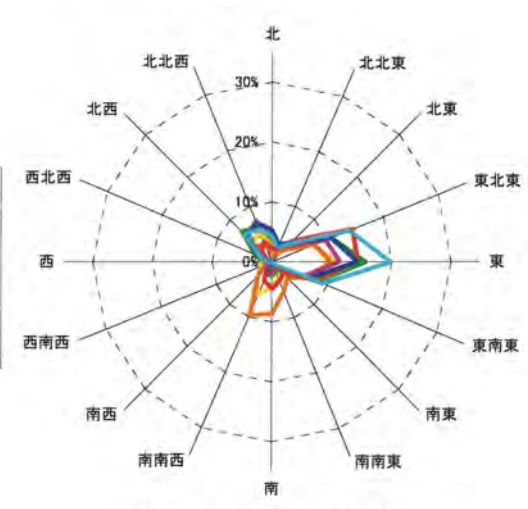
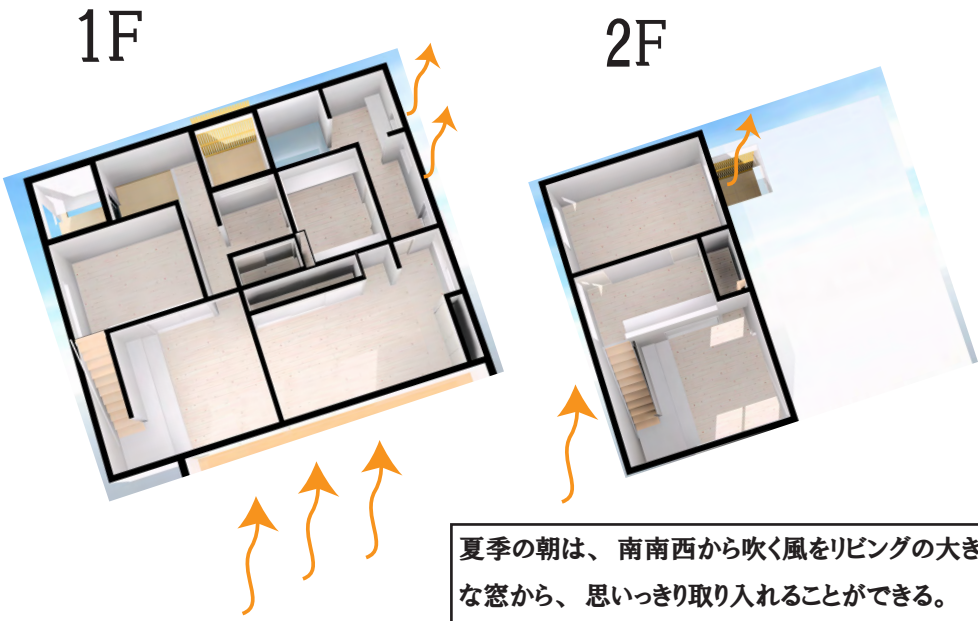
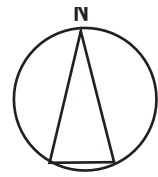
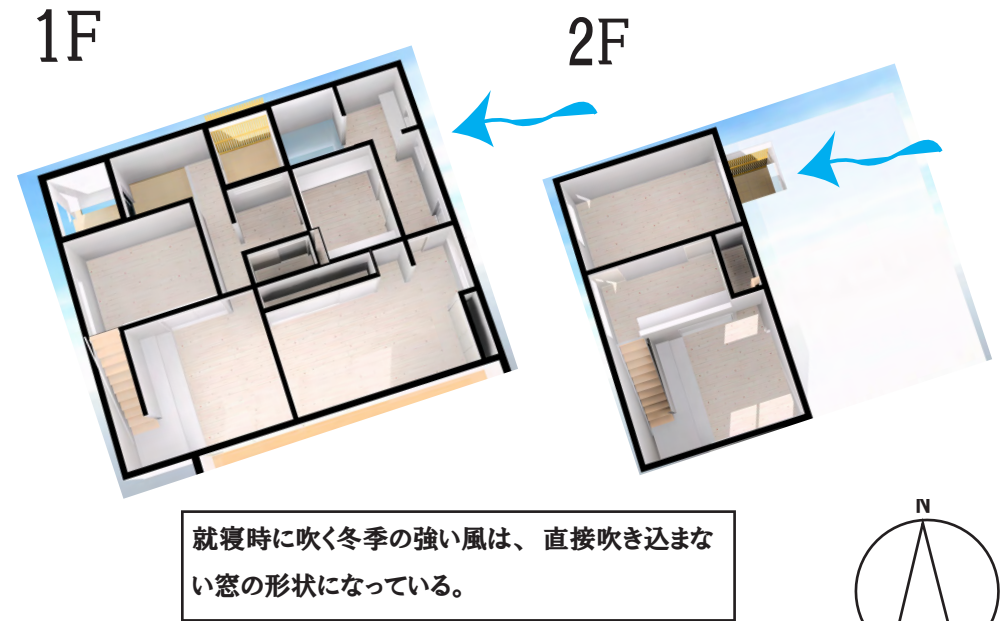


図4b 月別風配図(就寝時)

## 起床時



## 就寝時

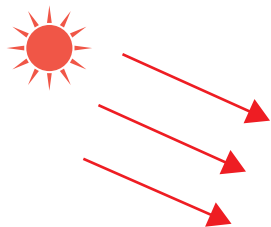


冬は部屋の奥まで光を取り込み暖かく、夏は窓から入る直射日光を避け、涼しく自然の力を最大限活かしたパッシブ設計。

真冬午後12時



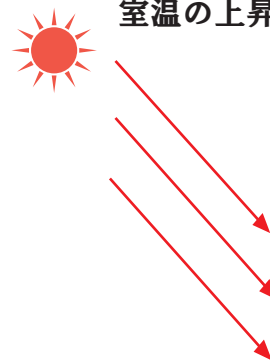
(冬至) 太陽の南中高度（太陽が真南にきて、一番高く上がった時の地平線との角度）が低くなる為、窓から部屋の奥まで暖かい光を取り込むことができる。



真夏午後12時



(夏至) 太陽の南中高度（太陽が真南にきて、一番高く上がった時の地平線との角度）が最も高くなる為、軒を出して日射を遮り、室温の上昇を抑える。



夏と冬では太陽の位置が異なります。建築家は季節ごとに変わる太陽の動きも熟知した上で設計します。